

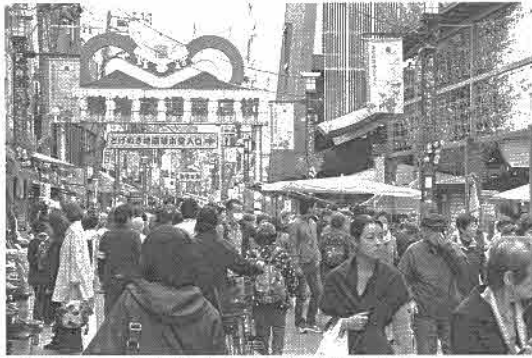
年金生活の水準

どこまで我慢できるかテスト



老後の生活を支える年金制度が破綻に瀕していることは周知の事実だろう。この破綻を回避しようと政府は支給年齢の引き上げや支給額の減額を進めようとしている。

しかし、年金制度改革ではなく、年金生活者の暮らしの状況



写真はイメージ（本文とは関係ありません）

に目を向けるべきだろう。ナクシス・グローバル・アセット・マネジメント社が2017年に公表した「世界年金受給者生活水準ランキング」によると、調査対象国43カ国のなかで日本の総合順位は22位だった。

この順位は健康状態6位、「モノの豊かさ」12位であることから、中位水準にとどまっている。

しかし「生活の質」や「退職後の経済状態」に関するランキングでは、順位がつかない圏外に転落している。欧州諸国でも財政問題を抱えている国の状況は芳しくないが、日本の年金生活者のおかれた状況の厳しさは際立っている。

年金制度について検討されている「改革」は、この受給者の生活をさらに悪化させるだけに

なる。「改革」は年金財政のつじつま合わせを図る財務省にとつて都合がよいだけだろう。

このような暗い将来展望が、厳しい現実に乗せられて、日本では高齢者に突きつけられている。まるで、どこまで我慢できるかテストされているかのよくな気分になる。年金だけでなく社会保障関係費の増大によって大幅な赤字が発生し、累積する赤字国債にさいなまれている。財政を再建するためには、増税によって歳入を確保する以外に根本的な解決策はない。

歴代政府は増税による解決策を先延ばしにし、状況の悪化に追加してきた。増税案は選挙に不利だからだ。しかし、それは政治家たちが国民に増税の必要性を説得できる言葉も意欲も持っていないからにすぎない。

政府は社会保障の縮小均衡を続け、国民が生活困窮に音を立てて年金制度などの改善のために増税を受け入れるまで、待ち

続けるつもりなのだろう。

政権の維持には関心があっても、国民生活の改善を本気で考えるほどの目線の低さと、まなざしの真剣さを政治家から感じることができない。さまざまなかんざんダルに対する証拠隠しの不誠実さにも共通する保身がすべてであろう。政治家が本来の責務を忘れ、責任を遂行できない無能さを露呈している。この現実の証拠は明白で、どう取りつくりとうと隠しようがない。

この冬、平昌で開催されたオリンピックでメダルの数を競いあうニュースにわき上がった。しかし、視野を広げて現実の生活に密着した問題解決で各国は競い合っている。この競争において、日本は予選の通過すらおぼつかない惨状にあることを認識すべきだ。金メダルとはいわないが、せめて上位に食い込めるように生活の質の改善に目を向け、努力する必要がある。

（東京大名誉教授 武田 晴人）